

■ 概況

5/13~5/19のNYMEX・WTI先物市場は、63.36~66.27ドルの範囲で推移した。

5月20日は、前日のイラン核合意再建を目指す協議の進展、ロウハニ大統領の経済制裁解除発言の報道を受けて、イラン原油輸出再開への懸念から、3日続落した。6月限の終値は前日比1.31ドル安の62.05ドル。

週末21日は、前日までの安値の反動、イラン経済制裁会場には時間を要するとの観測から、4日ぶりに反発した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比6基増の358基で3週連続の増加。この日から取引の中心限月となった7月限の終値は前日比1.64ドル高の63.58ドル。

週明け24日は、英バークレイズ、米ゴールドマンサックス等、相次ぐ石油需要増加観測を好感し、大幅に続伸した。また、イラン核合意をめぐる協議の進展には慎重な見方が強まり、早期イラン原油輸出再開の見方は後退した。7月限の終値は2.47ドル高の66.05ドル。

25日は、夏の行楽シーズンを控え、コロナからの経済回復への期待、また、イラン経済制裁緩和には時間を要するとの見方から、わずかに続伸した。7月限の終値は前日比0.02ドル高の66.07ドル。

26日は、米国内原油在庫は前週末比170バレル減と市場予想を上回る取り崩し、ガソリンも、中間留分も製品在庫が減少したことで、わずかに続伸した。7月限の終値は前日比0.14ドル高の66.21ドル。

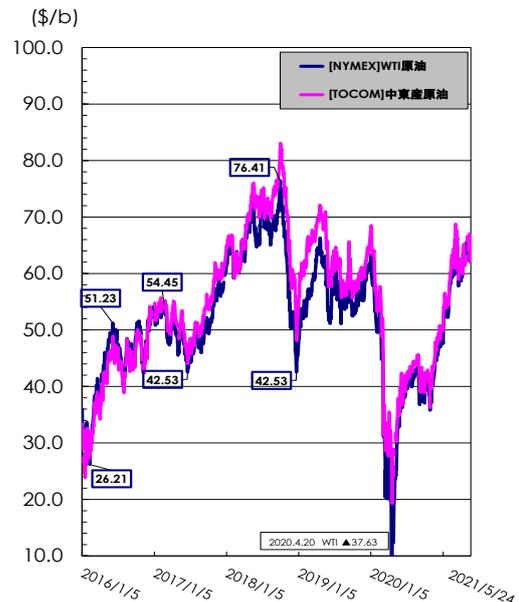
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、5月13日~19日の間64.70~67.90ドルの範囲で推移した。5月20日65.50ドル、21日63.60ドル、24日65.50ド

ル、25日67.20ドル、26日67.00ドルと推移した。

為替は5月13日~19日の間109.00~109.63円の範囲で推移した。5月20日109.25円、21日108.90円、24日108.98円、25日108.85円、26日108.75円で推移した。

そのような中で、5月24日時点の小売価格は、ガソリンが前週(5月17日)比0.8円の値上がり、軽油も同0.7円の値上がり、灯油は同8円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は25週連続の値上がりだった。この週(5月第4週)の原油コストは値下りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5~1.0円の引き下げとなった模様。

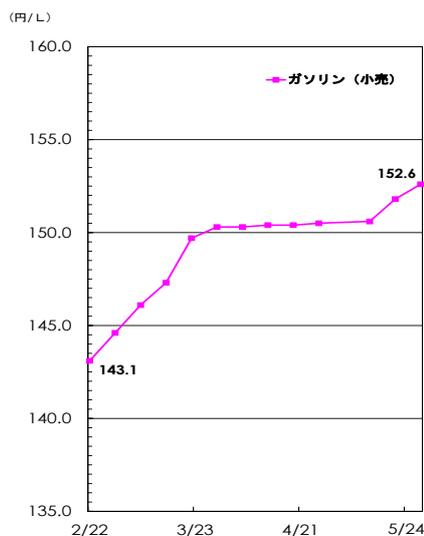
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/16 ~ 5/22	2,236 ▼ -1.63	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	58.1 ▼ -4.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/22	11,399 ▲ 161	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/24	63.72 ▼ -1.89	▲ 27.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/24	66.05 ▼ -0.22	▲ 31.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	66.58 ▲ 0.27	▲ 24.37
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,849 ▼ -129	▲ 17,020
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.48 ▲ 0.75	▼ -0.89
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/24	109.98 ▲ 0.47	▼ -1.33



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/16 ~ 5/22	734 ▼ -33 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	675 ▲ 19 ▲ -	
	輸出	"	0 → 0 ▼ -	
	在庫	5/22	2,085 ▲ 60 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/18 ~ 5/24	61.4 ▼ -0.5 ▲ 31.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/18 ~ 5/24	58.4 ▼ -0.7 ▲ 26.8
		(TOCOM/中部)	5/24	59.5 ▼ -0.7 ▲ 26.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/24	152.6 ▲ 0.8 ▲ 25.7	

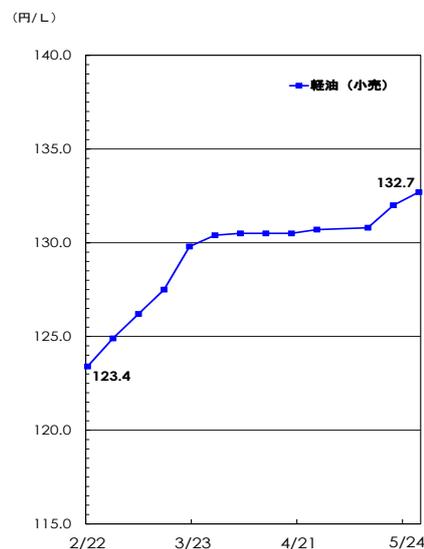
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

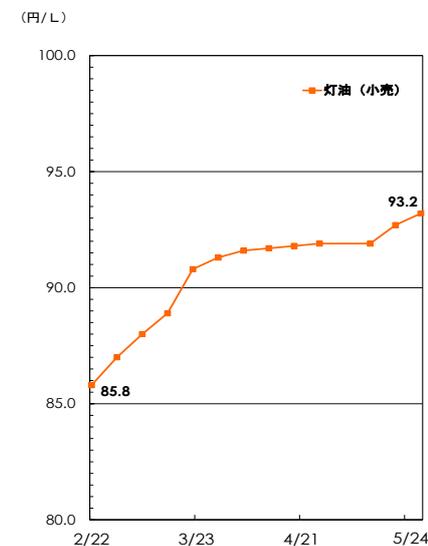
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/16 ~ 5/22	554 ▼ -45 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	607 ▲ 58 ▲ -	
	輸出	"	5 ▲ 5 ▼ -	
	在庫	5/22	1,886 ▼ -59 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/18 ~ 5/24	63.5 ▼ -0.3 ▲ 30.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/18 ~ 5/24	63.8 ▼ -0.3 ▲ 18.7
		(TOCOM/中部)	5/24	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/24	132.7 ▲ 0.7 ▲ 24.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/16 ~ 5/22	160 ▲ 20 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	118 ▼ -22 ▲ -	
	輸出	"	16 ▲ 16 ▲ -	
	在庫	5/22	1,519 ▲ 26 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/18 ~ 5/24	62.7 ▼ -0.5 ▲ 29.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/18 ~ 5/24	57.4 ▼ -1.4 ▲ 25.2
		(TOCOM/中部)	5/24	60.4 ▼ -2.1 ▲ 26.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/24	93.2 ▲ 0.5 ▲ 16.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月26日のNYMEXのWTI先物原油はわずかながら4営業日続伸した。朝方、イラン核合意再建への間接協議の進展を受けて、イラン原油の輸出再開への懸念から、売りが先行したが、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫は前週末比170万バレル減と市場予想(110万バレル減)を上回る取り崩しで、ガソリンも170万バレル減(市場予想:60万バレル減)、中間留分も200万バレル減(市場予想:190万バレル減)と製品在庫も減少したことで、買いが好調となった。今月末の連休からの米国のドライブシーズン入りへの期待感も強かった。7月限の終値は前日比

0.14ドル高の66.21ドル、8月限の終値は同0.17ドル高の65.96ドル。

EIAによると、5月24日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.8セント値下がり(1ガロン3.020ドル(87.6円/㍓)、ディーゼルは同0.4セント値上がり(3.253ドル(94.4円/㍓))となった。ガソリンは6週ぶりの値下がり、ディーゼルは4週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年5月16日～5月22日に休止したトッパー能力は106.5万バレル/日で、前週に対して9.6万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は223.6万klと、前週に比べ16.3万kl減少。前年に対しては3.8万klの増加。トッパー稼働率は58.1%と前週に対して4.2ポイントの減少、前年に対しては2.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.2%減、ジェット/18.1%減、灯油/14.0%増、軽油/7.5%減、A重油/11.7%増、C重油/4.6%増。今週のC重油の輸入は1.0万kl(前週比0.6万kl増)。軽油の輸出は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油、A重油が減少し、その他の油種で増加し、前年比ではA重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は67.5万kl(対前週2.8%増)と3週振りまで増加した。ジェット8.3万kl(対前週14.0%減)、灯油11.8万kl(対前週16.1%減)、軽油60.7万kl(対前週10.6%増)、A重油16.7万kl(対前週11.1%減)、C重油16.6万kl(対前週64.4%増)。

(単位:千kl)

	今週 (5/16 ~ 5/22)	前週 (5/9 ~ 5/15)	前週比	
ガソリン	675	656	▲ 19	(3%)
ジェット燃料	83	96	▼ -13	(-14%)
灯油	118	140	▼ -22	(-16%)
軽油	607	549	▲ 58	(11%)
A重油	167	188	▼ -21	(-11%)
C重油	166	101	▲ 65	(64%)
合計	1,816	1,730	▲ 86	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月22日時点の在庫は、ジェット、軽油、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは208.5万kl、前週差6.0万kl増。前年に対しては22.1万kl多い。

灯油は151.9万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては13.3万kl少ない。

軽油は188.6万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては41.4万kl多い。

A重油は77.4万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては4.7万kl多い。

C重油は198.8万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては3.0万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (5/22)	前週 (5/15)	前週比	
ガソリン	2,085	2,025	▲ 60	(3%)
ジェット燃料	749	806	▼ -57	(-7%)
灯油	1,519	1,493	▲ 26	(2%)
軽油	1,886	1,945	▼ -59	(-3%)
A重油	774	760	▲ 14	(2%)
C重油	1,988	2,014	▼ -26	(-1%)
合計	9,001	9,043	▼ -42	(-0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月18日～24日の指標原油価格は前週(5月11日～17日)比で値下がり、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値下がりしと見られる。

次週(5/27～6/2)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比0.5～1.0円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月18日～24日の製品スポット市況は、5月11日～17日平均と比べ、海上・ガソリンの取引の値上がりを除き、他の全油種・全取引とも値下がりした。

直近(5/18～5/24)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。直近週(5/18～5/24)において、ガソリンは114～115円台で値下がり、灯油は62～63円台で値下がり、軽油は63～64円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/18～5/24)に、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(5/18～5/24)に、ガソリンは116～117円台で出入り後値下がり、灯油は59～60円台で値下がり、軽油は64～65円台で値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は1.4円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。先物価格は、同期間(5/18～5/24)に、ガソリン110～113円台で大きく値下がり後値上がり、灯油56～59円台で大きく値下がり、軽油62～65円台で大きく値下がり後値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (5/18～5/24)	前週 (5/11～5/17)	前週比
	レギュラー	61.4	61.9
灯油	62.7	63.2	▼ -0.5
軽油	63.5	63.8	▼ -0.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (5/18～5/24)	前週 (5/11～5/17)	前週比
	レギュラー	58.4	59.1
灯油	57.4	58.8	▼ -1.4
軽油	63.8	64.1	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/18～5/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	▼ -0.7	▼ -0.6
灯油	▼ -0.5	▼ -1.4	▼ -0.9
軽油	▼ -0.3	▼ -0.3	▼ -0.3
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(5月17日)比0.8円高の152.6円、軽油も同0.7円高の132.7円、灯油は18%ペースで同8円高の1,677円(1%ペースでは同0.5円高93.2円)。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は25週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは40都道府県、横ばいは2県、値下がり5県だった。全国最安値は146.6円の埼玉県(前週比1.1円高)、その次に安かったのは146.8円の徳島県(同1.4円高)、他方、最高値は161.5円の長崎県(同1.5円高)だった。最も値上がりしたのは同2.8円高の神奈川県(151.4円)で、横ばいは群馬県と栃木県の2県、

最も値下がりしたのは同0.6円安の千葉県(150.0円)と愛知県(151.1円)だった。

今週(5月18日～24日)は、指標原油価格は値下がりし、為替レートもわずかに円高で、円建ての原油コストは値下がりしと見られる。次週(5月27日～6月2日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5～1.0円の値下げとなった模様。次回調査時(5月31日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/24)	前週 (5/17)	前週比	直近高値
レギュラー	152.6	151.8	▲ 0.8	08/8/4 185.1
灯油	93.2	92.7	▲ 0.5	08/8/11 132.1
軽油	132.7	132.0	▲ 0.7	08/8/4 167.4

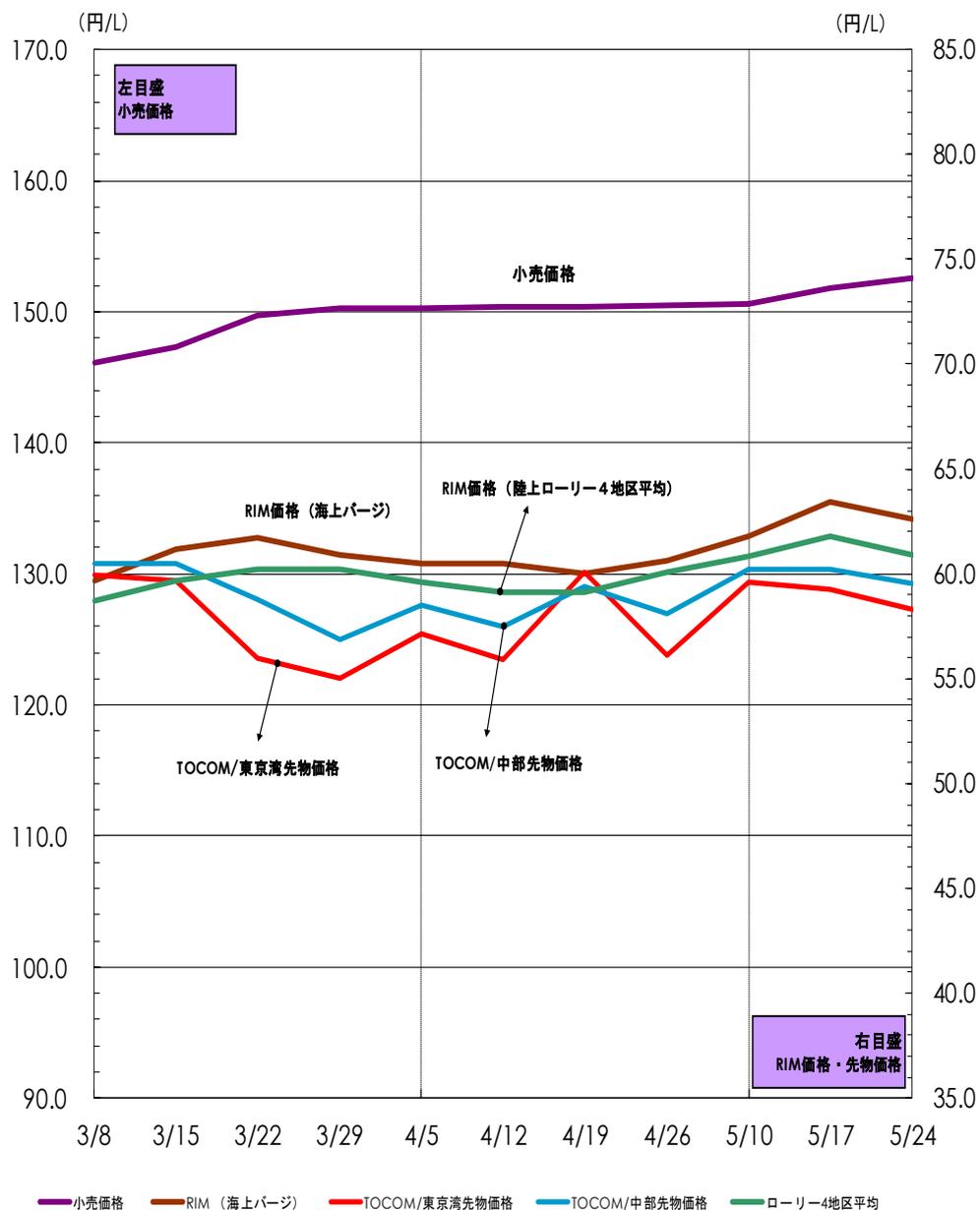
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/3/8 ~ 2021/5/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第9号)の公表は、6/4(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。